



# 日米首脳 初会談

# 揺るがぬ同盟 アジア平和の礎



米ワシントンのホワイトハウスで、初の日米首脳会談を前に安倍晋三首相(右)を歓迎するトランプ大統領

10日 (AP)

## T P P 「最善の方法を探求」

【ワシントン＝田北真樹子】安倍晋三首相は10日午後(日本時間11日未明)、米ワシントンのホワイトハウスでトランプ米大統領と会談した。安倍首相は会談後の共同記者会見で「アジア太平洋地域の平和と繁栄の礎は強固な日米同盟だ」と強調。尖閣諸島(沖縄県石垣市)について「(米国の日本防衛義務を定めた)日米安全保障条約5条の適用範囲であることを確認した」と明らかにした。

首相が大統領就任後のトランプ氏と会談するのは初めて。両首脳は会談で、厳しさを増すアジア太平洋地域をめぐる、東・南シナ海で中国による一方的な現状変更の試みに反対し、日米同盟を軸に関係国との関係強化を進めることで一致した。北朝鮮の核・ミサイル開発では、挑発行為を放棄するよう強く求め、いく考えを共有。拉致問題解決の重要性でも一致した。

経済分野では、両首脳は日米関係を深化させるため、麻生太郎副総理兼財務相とペンス副大統領のもとで、分野横断的な対話を行うことで合意した。

会談を受け、安全保障と経済に関する共同声明を発表した。「揺らぐことのない日米同盟」を掲げ、「核および通常戦力の双方によって日本の防衛に対しあらゆる種類の軍事力を使う」ことを明記。トランプ氏が離脱を決めた環太平洋戦略的経済連携協定(TPP)に関し「最善の方法を探求する。日米2国間の枠組みに関して議論する」と盛り込んだ。

首脳会談に先立ち、麻生氏はペンス氏と会談。岸田文雄外相もティラーソン国務長官と初めて会談した。ティラーソン氏も尖閣が日米安保条約5条の適用対象だとの認識を重ねて表明した。